スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

長野県岡谷市

自 治 体 名 ： 長野県岡谷市
担 当 課 名 ： 岡谷市教育委員会教育総務課
電 話 番 号 ： 0266-23-4811

1.自治体の基本情報

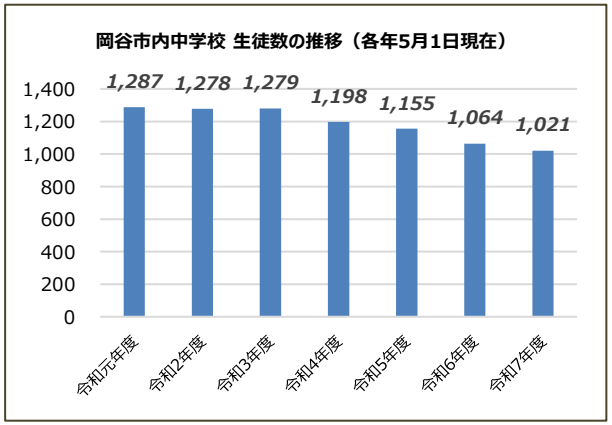
スポーツ庁

基本情報

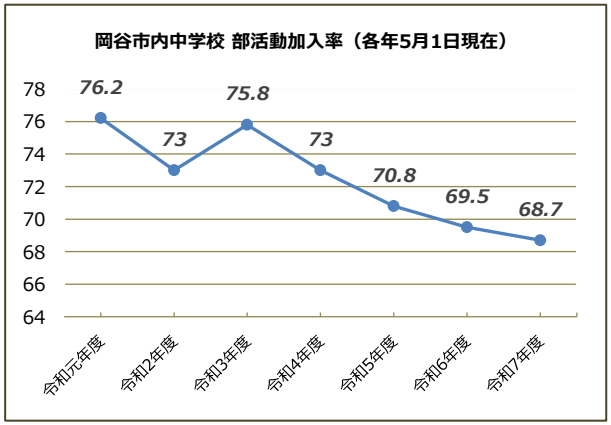
面積	85.14㎢
人口	44,989人
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	1,021人
部活動数 （運動部活動のみ）	28部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

- 少子化の進展により生徒数が減少し、多くの学校で従来の形の部活動を維持することが難しくなっています。廃部や他校との合同化が進む等、1校単位での存続が厳しい状況です。さらに、教員数の減少や専門的指導ができる顧問の不足、教員の多忙化といった課題もあり、働き方改革の観点からも、学校部活動の在り方を抜本的に見直す必要性が高まっている。
- 令和5年度の「学校部活動地域移行アンケート」では、部活動の良さとして「活動が楽しい」「友達ができた」「技能が向上した」等が挙げられ、地域クラブへの加入にも約71%が前向きな回答を示しました。ガイドラインでは地域クラブを教育課程外の社会体育・社会文化活動と位置付けており、今後は学校と連携しながら教育的意義を継承し、スポーツ・文化芸術の振興を図ることが重要である。
- 中学生が地域でスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、受け入れ体制が整っている「軟式野球」を対象に、運営団体の体制整備や指導者の確保、費用負担のあり方等について検証する休日部活動の地域クラブ活動への移行に向けた実証事業に取組、令和8年度末までに休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指している。



出典元：岡谷市の学校状況令和７年度基本調査結果



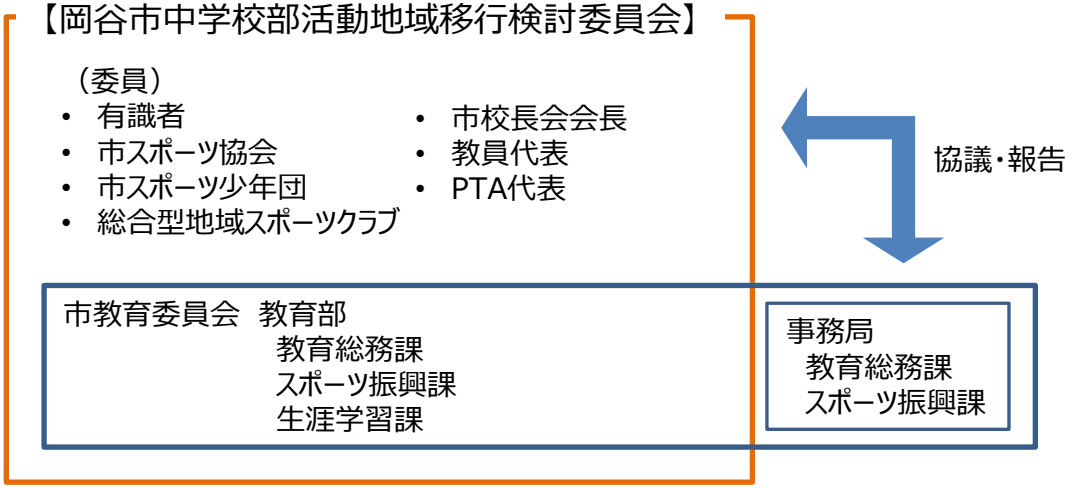
出典元：岡谷市学校部活動地域クラブ移行推進計画

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

- **岡谷市中学校部活動地域移行検討委員会の事務局の運営等。**
- **岡谷市少年野球会と連携し、休日の部活動の受け皿となる地域クラブ活動の運営体制を構築する。**
- **生涯学習課及びスポーツ振興課は部活動地域展開の主管課である教育総務課と連携し、各種団体との連携調整を行う。**

◉首長部局

- **地域展開に向けた財政支援。**
- **首長部局が担当する役割はない。全て教育委員会内で対応している。**

年間の事業スケジュール

令和6年12月 岡谷少年野球会と実証事業に向けた協議
令和7年　2月 岡谷少年野球会と実証事業に向けた協議調整
各中学校と実証事業に向けた調整
令和7年　3月 実証事業開始に向けた保護者への周知
令和7年　4月 休日の部活動（軟式野球）委託契約の締結
実証事業スタート
令和7年　5月 各中学校部活動運営会議 実証事業 周知
令和8年　2月 委託事業完了
令和8年　3月 部活動地域移行検討委員会　開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ（3部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		なし
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	6人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
岡谷クラブ	岡谷市少年野球会	軟式野球	休日2回	原則 9:00～ 12:00	1年11人 2年13人 3年2人	4月1日～ 3月31日	3人	6人 （内、兼務 1人）	検討中	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 岡谷市在住の中学生（近隣県立中学校生徒への参加機会の提供）
- 軟式野球部に加入していない生徒への参加機会の提供
- 軟式野球部が設置されていない学校の生徒への参加機会提供
- 体験会の開催（年5回）

2.実証内容と成果

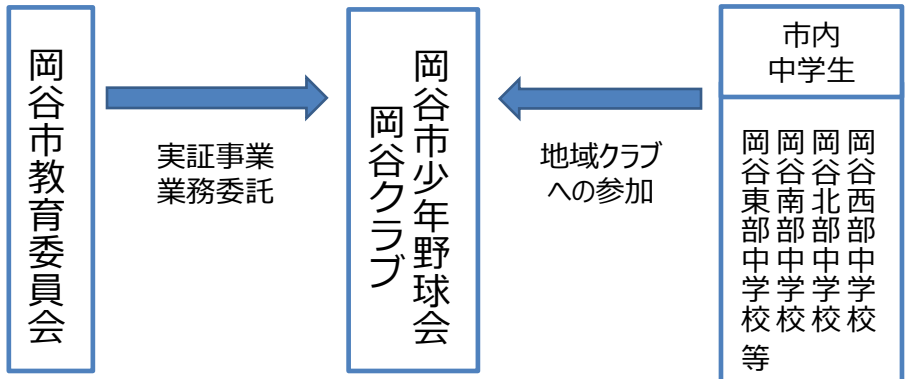
スポーツ庁

主な取組例

●岡谷少年野球会･岡谷クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	岡谷少年野球会
期間と日数	月6回程度
指導者の主な属性	保護者
活動場所	岡谷北部中学校、岡谷南部中学校 岡谷東部中学校
主な移動手段	徒歩及び保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	保護者負担については検討中 大会等はその都度徴収
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



- 部活動検討委員会を開催
- 推進計画の策定
- 中学校への説明会の実施

- 活動機会の創出
- 体験会の開催

●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 統括責任者　1名
  役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 指導者　3名（監督1名、コーチ2名）
  役割：軟式野球の技術指導を行う
- 責任者（保護者会長、保護者副会長）
  役割：教育総務課･学校との連携、クラブの運営を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 岡谷市少年野球会と実証事業業務委託契約を締結し事業を実施した。
- 県主催による「諏訪地区の部活動地域クラブ移行に関わる情報交換会」において、各市町村の部活動の地域クラブへの移行状況や課題等について情報共有が行われた。
- 教育委員会において、岡谷市部活動地域移行検討委員会を設置した。

取組の成果

- 軟式野球部が設置されていない学校の生徒が、地域クラブ活動へ参加した。
- 軟式野球部顧問の働き方改革への推進に繋げることができた。
- 教育総務課と生涯学習課及びスポーツ振興課が連携し、地域展開が推進できる体制への方策について検討を進めた。

今後の取組における課題

- 実証事業の進捗状況や課題（謝金）を検証しつつ、今後の地域移行への展開を検討する。

課題への対応方針

- 指導者謝金については、保護者負担の軽減に配慮し、国等の補助制度の活用を含めて検討する。
- 実証実験により地域クラブとなった代表者には、他の地域クラブを立ち上げに関する、助言や相談役になっていただくよう検討する。

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 岡谷市野球協会による指導者の確保、教職員の兼職兼業による指導により、休日の指導に従事していただいた。
- 県教育委員会が実施している指導者研修会への参加を必須とし、ハラスメント根絶、事故を未然に防ぐための安全な指導方法について理解を深めた。

取組の成果

- 長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針、長野県地域クラブ活動推進ガイドライン、岡谷市部活動地域移行推進計画を遵守して指導員の質の向上が図られた。
- 専門的な指導者が確保できたことにより、専門外の種目を指導しなくてはならない教職員の負担軽減も図られた。

今後の取組における課題

- 保護者会主体の組織における指導者確保

課題への対応方針

- 地域指導者の外部招聘、教職員の兼職兼業の活用、スポーツ団体等との連携による運営
- 信州地域クラブ活動指導者人材バンク

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実

取組事項

- 中学校と連携して進めていくために、各校長と連絡を密にして共通理解を図った。
- 市内中学校の施設を活用し、実証事業をスタートした。
- 市のスポーツ協会や文化関係団体等と情報共有を図りながら、地域の指導者（地域クラブ活動の受け皿）の確保に向けた協議を重ねた。
- 県主催による「諏訪地区の部活動地域クラブ移行に関わる情報交換会」において、各市町村の部活動の地域クラブへの移行状況や課題等について情報共有が行われた。
- 市ではプロスポーツチームと連携協定を締結しており、部活動地域移行に対しての協力の可否等についてヒアリングを実施した。

取組の成果

- 部活動が設置されていない学校の生徒に対し、軟式野球に親しむ機会を提供することができた。
- 他校の生徒との交流機会を確保することができた。
- 市のスポーツ協会や文化関係団体等の協力を得て、令和9年度からの地域指導者（地域クラブ活動）の立ち上げに向けた協議を行った。
- 岡谷クラブにおいて、練習体験会を開催した。（年5日）

今後の取組における課題

- 新たな地域クラブ活動の運営方法について検討をする。
- 部活動の地域クラブ活動への移行を円滑に推進するためには、市町村間の連携体制の構築とあわせて、広域的な視点に基づく計画的な検討が不可欠である。
- 市が連携協定を締結しているプロスポーツチームは、地域にとって魅力ある資源である。この強みを生かし、部活動の地域展開と連動した施策及び仕組みづくりを進めていくことが今後の課題である。

課題への対応方針

- 新たな地域クラブ活動の運営については、実証事業の成果を踏まえて課題を整理し、今後の地域移行への展開について検討する。
- 市が連携協定を締結しているプロスポーツチームと協議し、はじめて行う部活動であっても加入後スムーズに部活動が行える環境作りへの取り組みを検討する。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 令和6年6月に設立した地域クラブ活動（軟式野球）について、地域スポーツクラブ活動体制整備事業（実証事業）の取組を開始した。
- 部活動の地域展開について、本市の競技団体等と継続的に協議を行い、一定の方向性を整理することができた。

●成果の評価

- 岡谷市では、令和8年度末までの休日における部活動の地域展開を目標に取組を進めている。合同部活動の実施や実証事業（軟式野球）の成果をもとに関係団体と協議を重ねた結果、子どもたちの活動機会の確保と教師の負担軽減に一定の成果が現れている。
- 平日から休日への部活動指導員の活用や地域クラブの指導者の確保により、今後持続して活動していく仕組みや他の競技や種目への展開を図っていくための課題を把握することができた。

  指導者の確保（指導者への謝金）と質の向上（教育的意義の継承）
  活動場所までの移動手段の確保
  受益者負担
  活動場所の確保（学校施設等）

●今後に向けて

- 令和7年度は、国の実証事業を活用した軟式野球については、受益者負担を求めなかったが、持続可能な運営を考慮して、令和8年度からは受益者負担による運営を進めていく。
- 軟式野球部以外の部活動については、令和8年度末までに休日の地域クラブ活動へ完全移行することを目標とする。
- 平日の部活動との連携が課題であることから、今後は学校と指導者間の情報共有及び連絡調整を一層充実させていく。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●学校部活動地域移行に関するアンケート集計結果＜概要＞

目　的　休日における中学校の部活動の地域移行の方向性を検討するにあたり、その基礎資料となる児童生徒・保護者・教職員の意向を捉える。

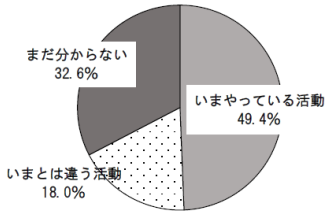
期　間　令和5年6月5日（月）～6月30日（金）

対　象	**小学校5、6年生**	**620人／708人**	**87.6%**
	中学校1、2年生	**463人／742人**	**62.4%**
	小学校5、6年生保護者	**729人／1,025人**	**71.1%**
	中学校1、2年生保護者	**695人／895人**	**77.7%**
	中学校教員	**83人／94人**	**88.3%**

小学校 5、6 年生

＜質問内容＞

- **現在スポーツや文化芸術活動を行っているか**　活動している　**77.1%**
- **活動の内容（上位 3 位）**　水泳 19.7%、軟式野球 12.3%、バスケットボール 10.9%
  ピアノ 20.7%、書道 13.6%、ダンス 6.5%
- **中学生になったら活動を続けたいか**
  続けたい 49.4%
  違う活動 18.0%
  まだ分からない 32.6%

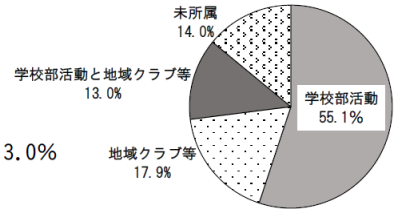


- **中学入学後の希望種目（現在と違う活動を望む児童 上位 3 位）**
  水泳 18.6%、バスケットボール 17.4%、卓球 16.3%
  美術 19.8%、吹奏楽 14.0%、合唱 8.1%
- **中学入学後の希望種目（現在活動していない児童）**
  バドミントン 22.5%、バスケットボール 21.1%、卓球 16.9%
  美術 19.7%、吹奏楽 14.1%、合唱 9.9%

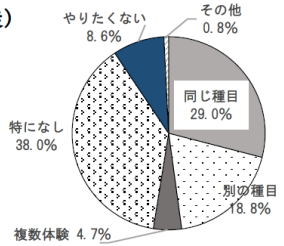
中学校 1、2 年生

＜質問内容＞

- **現在の所属について**
  学校部活動 55.1%
  地域クラブ等 17.9%
  学校部活動と地域クラブ等の両方 13.0%
  未所属 14.0%



- **学校部活動の内容（上位 3 位）**
  （運動部）バスケットボール 13.3%、バレーボール 12.9%、陸上競技 10.2%
  （文化部）吹奏楽 20.8%、美術 14.5%、合唱 3.1%
- **部活動に入部した理由**
  上手になりたいから 61.6%
  活動が楽しいから 60.4%
  友達と活動できるから 49.0%
- **部活動に所属して良かったこと**
  活動が楽しい 78.0%
  友達ができた 65.1%
  技能が向上した 53.7%
- **部活動に所属して困ったこと**
  学業との両立が難しい 41.6%
  生徒や指導者との人間関係 18.8%
  練習日数や時間が少ない 16.5%
- **合同チームで活動して困ったこと**
  特になし 62.9%
  合同チームでの練習場所への移動 14.3%
- **休日に地域クラブ等で行いたいこと（部活動所属生徒）**
  特になし 38.0%
  学校の部活動と同じ種目 29.0%
  学校の部活動とは別の種目 18.8%
  地域クラブでの活動をやりたくない 8.6%
  複数の種目が体験できる活動 4.7%



- **未所属の理由**
  やってみたい学校部活動や地域クラブ等がない 53.8%
  活動に興味がない 36.9%
- **やってみたい活動ができる地域クラブ等があれば入りたいか（未所属生徒）**
  そう思う、どちらかといえばそう思う 71.4%

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

小学校 5、6 年保護者

＜質問内容＞

- **休日に子どもを地域クラブ等の活動に参加させたいか（学校部活動が平日となった場合）**
  - 子どもの希望に任せる 71.2%
  - 参加させたい 23.5%
- **休日の地域クラブ等の活動に係る月謝の妥当額（参加させたい保護者）**
  - 1,000 円以内 8.8%
  - 3,000 円以内 42.1%
  - 5,000 円以内 40.4%
- **地域クラブ等が部活動を担うことについて期待すること**
  - 希望する種目の活動継続 59.1%
  - 専門的な指導 55.0%
  - 技術力の向上 44.4%
- **地域クラブ等が部活動を担うことについて心配すること**
  - 活動場所までの送迎の負担 70.8%
  - 月謝など家計への負担 52.0%
  - 生徒や指導者との人間関係 45.1%

中学校 1、2 年保護者

＜質問内容＞

- **休日に子どもを地域クラブ等の活動に参加させたいか（学校部活動が平日となった場合）**
  - 子どもの希望に任せる 69.4%
  - 参加させたい 23.2%
- **休日の地域クラブ等の活動に係る月謝の妥当額（参加させたい保護者）**
  - 1,000 円以内 20.5%
  - 3,000 円以内 46.0%
  - 5,000 円以内 28.0%
- **地域クラブ等が部活動を担うことについて期待すること**
  - 専門的な指導 59.7%
  - 技術力の向上 48.2%
  - 希望する種目の活動継続 47.8%
- **地域クラブ等が部活動を担うことについて心配すること**
  - 活動場所までの送迎の負担 68.2%
  - 月謝など家計への負担 44.0%
  - 生徒や指導者との人間関係 35.1%

中学校教員

＜質問内容＞

- **部活動の指導状況**
  - 顧問または副顧問 78.3%
- **担当している部の指導について**
  - 専門として指導できる 35.4%
  - 専門ではないが指導できる 12.3%
  - 指導できない 52.3%
- **部活動の指導に負担を感じるか**
  - はい 78.5%　いいえ 21.5%

指導の専門性別の回答状況		
専門として指導できる	はい 56.5%	いいえ 43.5%
専門ではないが指導できる	はい 100.0%	いいえ 0.0%
指導できない	はい 78.5%	いいえ 21.5%

- **どのようなことに負担を感じるか**
  - 校務に影響が出てくる 82.4%
  - 教材研究の妨げとなっている 72.5%
  - 専門的な指導ができない 62.7%
- **地域の指導者として関わりたいか**
  - はい 20.5%　いいえ 79.5%
- **地域の指導者として関わりたい理由**
  - 生徒の成長がうれしい 64.7%
  - 指導することが楽しい 58.8%
  - 生徒の違う側面が見られる 41.2%
- **地域の指導者として関わりたくない理由**
  - 家庭を優先させたい 74.2%
  - 校務多忙化を解消するため 69.7%
  - 専門的な指導ができないから 54.5%

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料



【県中学校新人大会】



【練習試合の様子】



【必勝祈願の様子】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5～6年度		令和7年度		令和8年度	令和9年度
部活動検討委員会設置、検討開始	受け皿団体との協議調整	実証事業（軟式野球）の開始	実証事業（軟式野球）の検証	他種目への地域クラブ活動への展開に向けた調整	地域クラブ活動の拡大

- ステークホルダー

岡谷市教育委員会

岡谷市校長会（岡谷北部中学校長）

各指導者（中学校野球部顧問）

部活動の保護者代表

- 経過
  - 将来にわたり生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保することができるよう、部活動の地域移行を検討するため、検討委員会を立ち上げた。
  - 並行して、小学校学童野球の保護者会より、軟式野球の受け皿団体としての立ち上げについて相談を受け、学校及び保護者会と協議のうえ、クラブ化の開始時期について調整を行った。
- 実施にあたって生じた課題
  - 新1年生を中心とした保護者主体の体制のもと、学校の協力を得ながら安定した指導者を複数確保し、地域移行にも前向きに取組んでいただけたことから、大きな課題は生じなかった。
- 実施内容、工夫した点 等
  - 小学校学童野球の保護者主体で運営され、部活動の顧問が学校との調整役を担うことで、学校や市教委との連携も円滑に図ることができた。

- ステークホルダー
  - 各競技団体
- 経過
  - 各競技団体へアプローチして、課題・支援策の検討（移行可能な競技から順次、地域展開を進める）
  - 令和8年度末までの休日における部活動の地域展開を目指す。
- 実施にあたって生じた課題
  - 既存クラブの活用以外においては、新たなクラブ化に関して運営ノウハウの不足が課題であり、実証事業を通じて解決を図る。
  - 種目や協会によって意向（指導者不足や高齢化等）はさまざまであり、現在ある部活動の全ての種目を地域のスポーツクラブで受け入れることは困難が予想されるため、広域的な視点に立った検討が必要である。

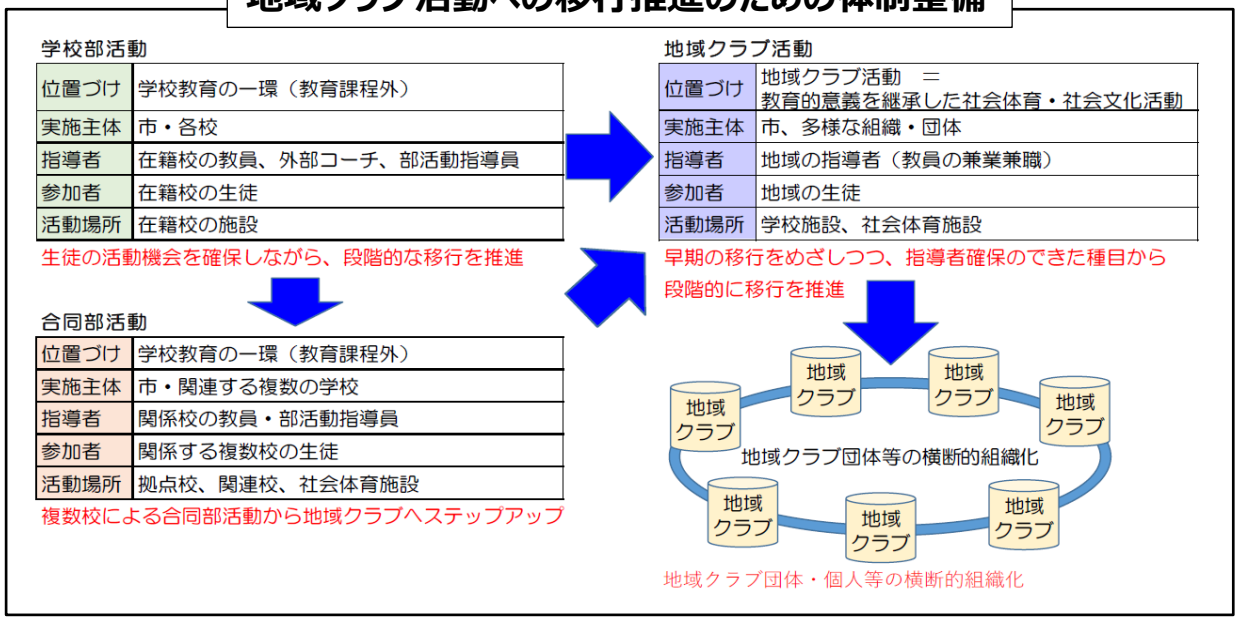
3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和7年度	• 「軟式野球」による実証事業の継続実施 • 地域クラブ活動移行に向けた検討・準備 • 学校部活動運営会議（保護者会）への説明 • 各競技団体との連携を強化し、課題の把握及び支援体制の構築を図る。
令和8年度	• 各競技団体との連携を強化し、課題の把握及び支援体制の構築を図る。（条件の整った競技から段階的に地域移行を推進する。） • 学校部活動運営会議（保護者会）への説明 • 年度末までにすべての休日部活動を地域クラブ活動に移行を目指す。
令和9年度	• 段階的に平日の部活動について、地域クラブ活動への移行を目指す。

地域クラブ活動への移行推進のための体制整備



出典元：岡谷市部活動地域クラブ移行推進計画